

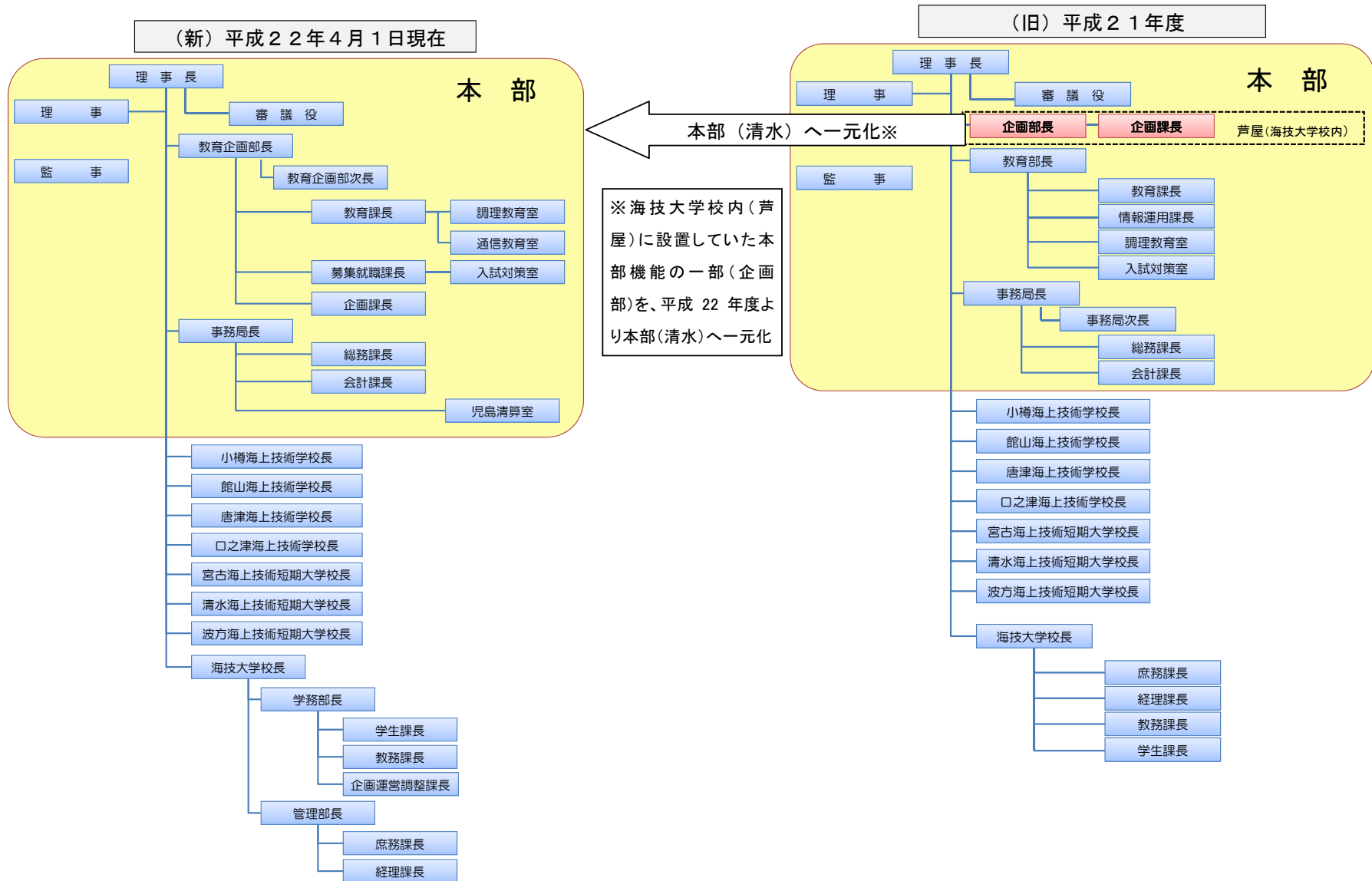
平成 22 事業年度業務実績報告書添付資料

独立行政法人海技教育機構

目 次

資料 1 : 独立行政法人海技教育機構組織改編図	1
資料 2 : 海上技術学校及び海上技術短期大学校の入試実績	2
資料 3 : 新通信教育の概要	3
資料 4 : 教科書改訂資料	7
資料 5 : 調理研修に係る新聞取材記事	8
資料 6 : 求人数及び就職者数の推移	9
資料 7 : 機構HPにおける生徒・学生情報の公開	10
資料 8 : 平成 22 年度教職員研修実績	11
資料 9 : 授業評価アンケート報告書	13
資料 10 : 平成 22 年度保護者アンケート報告書	15
資料 11 : 広報活動資料	17
資料 12 : 平成 22 年度研究分野別一覧表	18
資料 13 : 平成 22 年度委員等派遣実績	19
資料 14 : 平成 22 年度研究発表実績一覧	20

独立行政法人海技教育機構組織改編図



海上技術学校及び海上技術短期大学校の入試実績(平成21～23年度入試)

学校	国立小樽海上技術学校				国立館山海上技術学校				国立唐津海上技術学校				国立口之津海上技術学校				計			
	30				40・30(23年度～)				40・30(23年度～)				30				140・120(23年度～)			
養成 定員	応募	応募倍率	入学	定員充足率	応募	応募倍率	入学	定員充足率	応募	応募倍率	入学	定員充足率	応募	応募倍率	入学	定員充足率	応募	応募倍率	入学	定員充足率
21年度	53	1.8	34	1.1	75	1.9	42	1.1	85	2.1	46	1.2	66	2.2	33	1.1	279	2.0	155	1.1
22年度	60	2.0	32	1.1	67	1.7	43	1.1	97	2.4	40	1.0	69	2.3	35	1.2	293	2.1	150	1.1
23年度	71	2.4	29	1.0	96	3.2	36	1.2	108	3.6	43	1.4	68	2.3	33	1.1	343	2.9	141	1.2

学校	国立宮古海上技術短期大学校				国立清水海上技術短期大学校				国立波方海上技術短期大学校				計							
	40				110				90・80(23年度～)				240・230(23年度～)							
養成 定員	応募	応募倍率	入学	定員充足率	応募	応募倍率	入学	定員充足率	応募	応募倍率	入学	定員充足率	応募	応募倍率	入学	定員充足率	応募	応募倍率	入学	定員充足率
21年度	55	1.4	49	1.2	187	1.7	115	1.0	107	1.2	86	1.0	349	1.5	250	1.0				
22年度	75	1.9	46	1.2	197	1.8	115	1.0	195	2.2	94	1.0	467	1.9	255	1.1				
23年度	67	1.7	43	1.1	232	2.1	112	1.0	221	2.8	90	1.1	520	2.3	245	1.1				

新通信教育の概要

独立行政法人海技教育機構

1

1. 入学前の通信教育について

- ☆ 平成23年度入学予定者から実施する
- ☆ 郵送された課題の添削を本部が行う

項目	内容
教科	数 学（専門科目の履修に備え、計算力向上を図る）
対象者	入学確約書の提出者の中から、各学校で基礎学力不足と判断した者（人数制限なし）
教材	本部作成の課題及び解答書（入学予定の学校名を記載） 各学校は入学確約書を受けて、課題・説明書（本部作成）・提出用封筒を入学予定者へ郵送
提出	3月末までに、入学予定者は 各自の入学予定校に郵送 （入学以前の学生との窓口は学校とし、各学校は課題を取りまとめた後本部へ送付）
返却	本部で添削後、 各学校に送付 。各学校はその後、入学予定者に返却 ※ 未提出者には、入学後学校から解答書を配布

※ 入学前教育の事前周知 例→ ①学校案内・パンフレット等への掲載 ②PR訪問時の学校説明

2

入学前通信教育添削課題内容

テキストの内容		
No	単元	ねらい
1	整数	基本的な整数計算と計算の決まり
2	整数の性質	約数や倍数、素因数分解
3	分数	分数の四則計算、約分と通分
4	指数	累乗の決まりと基本的な指数問題
5	文字式	文字式の表し方と決まり
6	式の計算	同類項のまとめ、分配法則及び指数法則の利用
7	式の展開	公式を使った式の展開
8	因数分解	公式等を使った因数分解
9	平方根	平方根の意味と基本計算
10	1次方程式	方程式の基本的な解法
11	連立方程式	代入法と加減法の計算方法
12	2次方程式	解の公式等を使った解法
13	1次不等式	符号による不等号の向きに気をつけた計算
14	関数とグラフ	座標平面の基本と1次関数
15	比と割合・百分率	比例式の基本と割合、百分率の確認
16	三角比	三平方の定理と三角比の基本

3

2. 数学の実力試験実施について

- ☆ 試験は各学校で実施し、採点及び集計は本部で実施する
- ☆ 同一基準で専修科全体のレベルが把握できる

項目	内容
教科	数学
受験者	入学者全員
実施時期	4月15日頃まで
試験問題	本科の入学試験問題を元に本部が作成し、4月10日までに各学校へPDFにて送付（各校で印刷）
解答用紙	試験終了後、速やかに各学校は本部へ送付

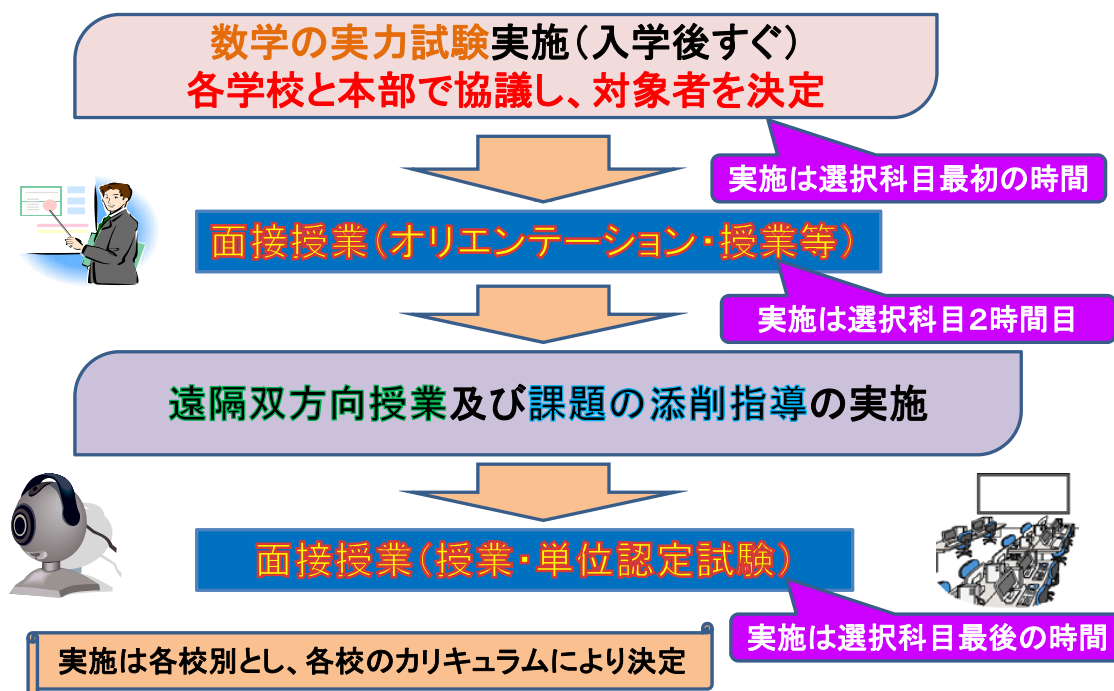
4

3. 入学後の通信教育について

項目	内容
対象学年と教科	専修科1年生に選択科目(航海・機関特論)時間内に、 航機特論 として実施
選抜方法	入学後の実力試験及び入学試験の結果等から本部と各学校で協議し決定 (なお、人数については通信機器の性能及び通信環境により決定する。)
課題	本部で作成した課題に各学校名を入れて使用(0.5単位:15時間相当分)
面接授業	時期・・・選択科目の開始及び終了時の2回(4時間) 場所・・・各学校のパソコン室 内容・・・授業内容の説明、パソコン操作、基礎数学授業、試験等
添削指導	遠隔双方向授業による理解度確認のため2回実施 レポートは各学校で取りまとめ、本部へ郵送 本部にて添削指導後、各学校へ返送
遠隔双方向授業	面接授業以外の時間数を 遠隔双方向授業 で実施(10時間) 実施にあたり、各校1名の教員が補助として協力
その他	補助教員の専門教科の特論名を単位認定 補助教員は、出欠確認・レポート收受・授業アシスト等を担当

5

入学後の通信教育の流れ



6

面接・遠隔双方向授業について

面接授業

- ・学校ごとに訪問実施
- ・回数と内容(実施時間:4時間)
 - 1回目(開始時):オリエンテーションと基礎数学授業及び試験(テキスト配布、今後の計画、パソコン操作の説明と体験)
 - 2回目(終了時)基礎数学授業と単位認定試験

遠隔双方向授業

相互に実施

- ・学校ごとに単位認定充足時間、10時間の遠隔双方向授業を実施
- ・アンケート機能等を利用し、理解度を確認しながらの授業実施が可能
- ・各校1名補助教員として協力

添削指導

- ・添削レポートを2回提出

1時間は、
実力試験

7

入学後通信教育実施内容

選択授業 (遠・面)	課題 及び 授業関係			レポート		
	時間	№	単元名	内 容 (【 】:専門科目関係例)	回数	提出時期
	1	※	(当時校に依頼)	数学実力試験(本科入試問題:平成22年2月実施)	回数	提出時期
	2	※	(自己紹介と今後)	オリエンテーション(機器取扱説明と今後の予定など)		
	3	1	数と基礎計算	数と基本的な計算・正負の数【機関:温度】		
	4	2	数の計算	小数と分数の計算【電気:合成抵抗】	1回	各校毎に決定
	5	3	文字式と式の計算	文字式と整式の四則計算【運用:鉛筆の伸出量】		
	6	4	平方根の計算	平方根の基礎と三平方の定理【航法:光達距離の計算】		
	7	5	速力の計算	距離・時間・速度の関係【航法:船舶の運航状況】		
	8	6	ベクトル	ベクトルの意味【航法:流潮航法】		
	9	7	比例の性質	比を利用した計算【運用:船舶の復元性】	2回	各校毎に決定
	10	8	いろいろな方程式	一次・連立方程式の基本【機関:熱関係、電気:回路】		
	11	9	時間と角度の計算	経度と時間の関係【航法:世界時と地方時】		
	12	10	力の計算	様々な力に関する計算【機関:仕事、圧力、馬力の単位】		
	13	11	三角比の計算	sin,cos,tanの基礎【航法:天文航法】		
	14	※	(不足補充・まとめ)	これまでの総復習(予備授業時間、試験対策等)	※遠隔授業内容のみ対象	
	15	※	(アンケートと試験)	単位認定試験の実施(アンケートによる授業評価)		

8

資料 4

教科書改訂資料

20年度		21年度		22年度		23年度(予定)		24年度(予定)	
海洋気象	口之津	航法Ⅰ	清水	航法Ⅱ	清水	海洋気象	口之津	航法Ⅰ	清水
機械工作	口之津	航海計器Ⅰ	唐津	航海計器Ⅱ	唐津	機械工作	口之津	航海計器Ⅰ	唐津
航海実技	館山	運用Ⅰ	小樽	運用Ⅲ	小樽	航海実技	館山	運用Ⅰ	小樽
総合訓練・救命	波方	運用Ⅱ	小樽	海事法規図集	館山	総合訓練・救命	波方	運用Ⅱ	小樽
総合訓練・消火	波方	海事法規	館山	海運実務	清水	総合訓練・消火	波方	海事法規	館山
海上実習 テーマ集	宮古	情報技術	唐津	海事英語	宮古	海上実習 テーマ集	宮古	情報技術	唐津
		機関実技 演習ノート	館山	船用機関Ⅰ	波方			機関実技 演習ノート	館山
				船用機関Ⅱ	波方				
6種		7種		8種		6種		7種	

教科書大改訂 (23年度～)

* 23年度から専従者配置

調理研修に係る新聞取材記事

▼静岡新聞（平成 23 年 2 月 2 日）



2班

船の食事おいしく

清水区 船員対象に調理研修

全日本海員福祉センター 教育機構と清水海上技術
1による内航海運船員向 短大で始まった。10〜60
日の船内調理研修が1 代の船員約15人が調理の
日、静岡市清水区の海技 基礎を身につけた。

講師が包丁研ぎや調理
用具を清潔に保つ方法な
ど、船内の調理場で必要
な準備のほか、野菜の切
り方、魚のさばき方、卵
焼き作りなどを指導し
た。参加者は真剣な表情
で料理に取り組み、覚え
たての技術を確認してい
た。

同機構によると、最近
は最小限の乗組員で船を
運航することが多く、一
般の船員にも調理技術の
習得を求められるケース
が増えているという。

研修は3日までで、す
しやお造りの調理指導、
栄養学、食品衛生学の講
義などが予定されてい
る。

船内調理の基礎を学ぶ参加者—静岡市清水区

▼日本海事新聞（平成 23 年 2 月 8 日）



【静岡】全日本海員福祉センター（藤澤洋二会長）主催の「船内調理研修会」が1日から3日まで、静岡市清水区折戸の海技教育機構（船柄好利理事長）と清水海上技術短期大学の調理施設を利用して開催された。写真。

船内調理研修会は、同機構の専任講師から調理の基本を習得し、乗組員の食事面での健康管理の実際を学ぶもので、包丁の研ぎ方、魚のおろし方や栄養学から食品衛生学まで幅広い内容の講義・実習が行われた。

調理実習は、野菜の切り方、ごま和え、みそ汁、とんかつ、スパゲティ、クリームスープ、ひじき、ナシ、酢豚、お造りなど盛りだくさんの内容。茶わん蒸しなどは講師の「三つ髷は蒸し上がる直前に素早く入れると香りも出て喜ばれます」のアドバイスに、受講者はメモを取ったりうなづいたりしていた。今年度は昨年8月に次いで開催。通算で7回目。全国7校の海技学校でも実施している。

司厨職員ら15人
船内調理研修会
全日本海員
福祉センター

資料6

求人数及び就職者数の推移

1. 求人数の推移（*4月1日付け求人・就職状況調査による）

	海上(名)	陸上(名)	合計(名)
18年度	988	85	1,073
19年度	1,184	184	1,368
20年度	962	164	1,126
21年度	667	67	734
22年度	509	23	532

2. 就職者数の推移

	卒業者数(名)	就職希望者数(名)	就職者数(名)			就職率	
			海上	陸上	合計	海上就職率	合計就職率
18年度	384	332	296	21	317	89.2%	95.5%
19年度	352	307	289	14	303	94.1%	98.7%
20年度	365	326	310	11	321	95.1%	98.5%
21年度	395	359	351	2	353	97.8%	98.3%
22年度	403	367	359	4	363	97.8%	98.9%

*いずれの表も、司ちゅう・事務科を除く

海上就職率＝海上就職者数÷就職希望者数
 合計就職率＝合計就職者数÷就職希望者数

機構 HP における生徒・学生情報の公開

①(独)海技教育機構 トップページ

I.A.I. Marine Technical Education Agency
 独立行政法人海技教育機構
 〒424-8678 静岡県静岡市清水区折戸3-18-1
 TEL:054-334-0970 FAX:054-334-3065
 E-Mail:soumukakari@mtea.ac.jp

HOME ニュース お知らせ リンク 0005127

概要 学校案内 募集案内 船員と海運 情報公開 お知らせ Q&A 海事企業の方へ

船で働く プロを育てる

船員になりたい 高校生/一般の皆さんへ
 船員になりたい 中学生の皆さんへ
船の学校 生徒・学生情報

海技教育機構は東西南北に
 学校及び大学の所在地にカーソルを合わせて下さい。
 (色名が表示されクリックするとそれぞれのホームページジャンプします。)

小樽市

②海事企業の方へ

I.A.I. Marine Technical Education Agency
 独立行政法人海技教育機構
 〒424-8678 静岡県静岡市清水区折戸3-18-1
 TEL:054-334-0970 FAX:054-334-3065
 E-Mail:soumukakar@mtea.ac.jp

HOME ニュース お知らせ リンク 0005120

概要 学校案内 募集案内 船員と海運 情報公開 お知らせ Q&A 海事企業の方へ

海事企業の方へ

(独)海技教育機構では、全国の海上技術学校及び海上技術短期大学校と連携し、当機構のホームページに最新の生徒・学生情報を掲載しています。生徒・学生への求人応募リクエストがございましたら、下記の「生徒・学生情報(PDFファイル)」をご覧ください。また、ご質問は「募集情報についてのお問い合わせ」ボタンより、担当者までご連絡下さい。

本科 生徒情報
 小樽校・箱山校・徳島校・石巻校 本科 4校の生徒情報

専修科 学生情報
 富吉校・波井校・清水校

募集情報についてのお問い合わせ

海上技術学校 平成23年9月修了予定者 生徒情報 平成23年2月9日現在

《海事企業の方へ》
 平成23年9月卒業予定の生徒情報です。
 お問い合わせ先：各海上技術学校 指導課長までお問い合わせください。
 国立小樽海上技術学校 野村 哲也 TEL:0134-54-2122 E-Mail:nomura-t@mtea.ac.jp
 国立館山海上技術学校 高石 守人 TEL:0470-22-1912 E-Mail:takaishi-m@mtea.ac.jp
 国立唐津海上技術学校 飯田 正志 TEL:0955-72-8269 E-Mail:iida-m@mtea.ac.jp
 国立口之津海上技術学校 森 真 TEL:0957-86-2152 E-Mail:mori-m@mtea.ac.jp

学校名	登録No.	希望職種	希望職種	性別	年齢	出身地 (転居の可否)	取得資格	アピールポイント
(登録内容の説明)	国立小樽海上技術学校 …OT	一般貨物船 コンテナ船 RoRo船 自動車船	甲板部：N 機関部：E 事務部：S		希望職種 30年未満 の若年者です。	船運科兼 市町村まで 記入しています。 (タグ、フェリーの希望者は 転居の可否を記入して います。)	一級小型船舶操縦士 ガス溶接技能講習修了証 第二級海上特殊無線技士 については、全員が3月取得 見込みです。	生徒が自由に記入しています。 (教員からコメントがある場合には、 「指導教員から：」と記入があります。)
	国立館山海上技術学校 …TA	セメント・石灰石船 タンカー …TA 特殊タンク船 土・砂利船 その他貨物船					四級海技士(航海) 四級海技士(機関) 乗船実習修了後、口述試 験を受験します。	
	国立唐津海上技術学校 …FA 国立口之津海上技術学校 …CH	旅客船・フェリー タグ・作業船 その他海上職 船運未定 陸上職					筆記試験合格や、その他の資格 取得について記入しています。	
国立館山海上技術学校	TA-03	タグボート	N	男	18	千葉県館山市 (転居可)	3級海技士(航海) 科目合格	担任教員から： ・素直で温かな性格であり、任された仕事 は最後まで責任を持ってやり遂げることが できます。体を動かすことが好きで、部活 動ではテニス部所属し、厳しい練習に励ん でいました。
	TA-18	できればタグ それ以外でも可	N	男	18	東京都墨田区 (転居可)		担任教員から： ・寡黙でおとなしいが芯は強い。協調性が あり友人も多い。カッター部で副主将を務 め全国大会3位になりました。また、フル マラソンを2年連続完走するなど体力、精 神力共に充分と言えます。
国立館山海上技術学校	TA-35	できれば調査船 それ以外でも可	N	男	18	千葉県南房総市		担任教員から： ・穏やかな性格であるが、芯が強く確固た る自己を持っています。基本的な生活習慣 ができており素直で几帳面です。また、学 外活動で、海岸清掃や募金活動を行うなど ボランティア精神も旺盛です。
国立小樽海上技術学校	OT-01	指導課長から						
	OT-02	本校では、現3年生で就職未定者が5名(全員男)おります。						
	OT-03	船種は特にこだわりません。						
	OT-04	職種は全員甲板部を希望していますが、機関部でも構いません。						
	OT-05	出身地は、宮城県が1名、北海道が4名です。 全員乗船実習科(9月修了)に進学予定です。 よろしく願いいたします。						

③学生・生徒情報

資料 8

平成 2 2 年度教職員研修実績

1. 事務員

研修名	開催場所	日数	人数	区分
独立行政法人決算留意事項セミナー(4月14日)	あずさセンタービル(東京)	1	1	外部研修
平成22年度人事担当課長講習会(4月22日～23日)	国土交通大学校柏研修センター(千葉県)	1	1	外部研修
「服務・懲戒実務研修会」及び「勤務時間・休暇関係実務研修会」(6月4日)	日本私立学校振興・共済事業団講堂(東京)	1	1	外部研修
平成22年度評価・監査中央セミナー(9月9日～10日)	中央合同庁舎2号館講堂(東京)	1	1	外部研修
パワハラ・セクハラ防止講座(9月15日)	静岡市商工会議所(静岡県)	1	1	外部研修
非常勤職員雇用の人事実務研修(9月28日)	日本私立学校振興・共済事業団講堂(東京)	1	1	外部研修
職員相談員実務研修会(10月1日)	日本私立学校振興・共済事業団講堂(東京)	1	1	外部研修
平成22年度中堅係長(Ⅱ期)研修(10月18日～22日)	国土交通大学校柏研修センター(千葉県)	5	1	外部研修
平成22年度行政スキル基礎研修(10月25日～29日)	国土交通大学校柏研修センター(千葉県)	5	1	外部研修
平成22年度専門課程行政広報・情報公開研修(10月25日～29日)	国土交通大学校柏研修センター(千葉県)	5	1	外部研修
第29回政府出資法人等内部監査業務講習会(11月8日～12日)	会計検査院安中研修所(群馬県)	5	1	外部研修
平成22年度簿記研修(11月11日～22日)	国土交通大学校柏研修センター(千葉県)	12	1	外部研修
「給与実務研修会(諸手当関係)」(11月26日)	日本私立学校振興・共済事業団講堂(東京)	1	1	外部研修
平成22年度総合課程企業会計【基礎】研修(1月18日～26日)	国土交通大学校柏研修センター(千葉県)	9	1	外部研修
平成22年度新採用者研修(4月1日～2日)	海技教育機構本部(静岡県)	2	3	内部研修
平成22年度新採用者研修Ⅲ(7月1日～2日)	海技教育機構本部(静岡県)	2	1	内部研修
平成22年度新採用者研修Ⅳ(9月1日～2日)	海技教育機構本部(静岡県)	2	1	内部研修
文書実務研修(10月27日)	海技教育機構本部(静岡県)	1	6	内部研修
人数合計			25	

外部研修人数	14
--------	----

内部研修人数	11
--------	----

資料8－(2)

平成22年度教職員研修実績

2. 教 員

研修名	開催場所	日数	人数	区分
新採用者（教員）研修	海技教育機構本部	12	15	内部研修
セカンドステップ研修	海技教育機構本部	3	6	内部研修
技能研修	国立波方海上技術短期大学校	3	7	内部研修
海技丸乗船研修	海技丸（海技大学校練習船）	10	2	内部研修
小型教員研修	国立唐津海上技術学校	3	5	内部研修
	国立波方海上技術短期大学校	3	10	内部研修
	国立清水海上技術短期大学校	4	13	内部研修
内航船乗船研修	「名友丸」（三洋海運）	5	1	外部研修
	「第65浪速丸」（浪速タンカー）	5	1	外部研修
	「第8光洋丸」（広洋海運）	8	1	外部研修
ホームページ研修	(財)海技教育財団	2	10	外部研修
人数合計			71	

外部研修人数	13
--------	----

内部研修人数	58
--------	----

授業評価アンケート報告書

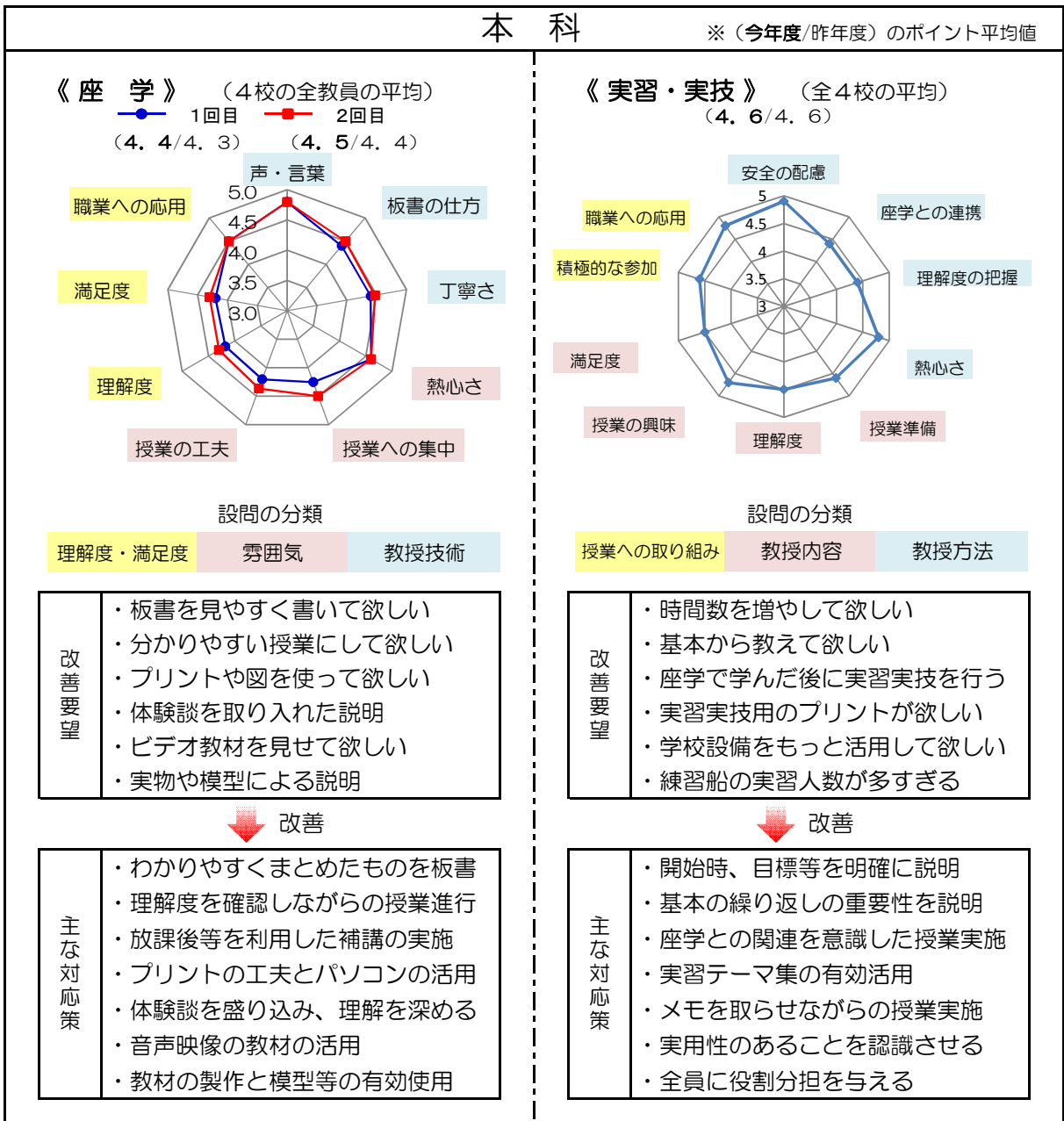
海技士教育科海技課程（本科・専修科）
（平成22年度）

1. 実施方法

(1)座学 年度内に2回実施（専修科2年のみ1回）

(2)実習実技 年1回実施（専修科2年は実施しない）

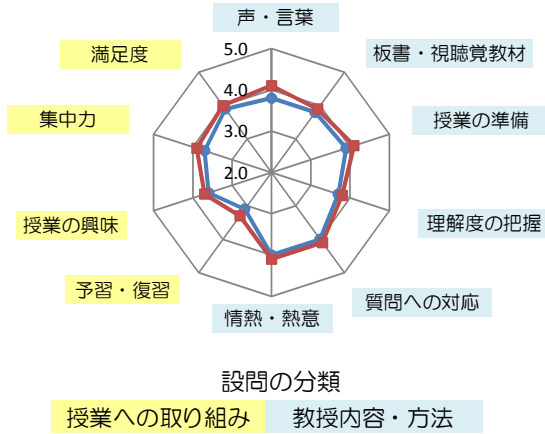
2. 集計結果



専修科（1年）

※（今年度/昨年度）のポイント平均値

《座学》（3校の全教員の平均）
 ● 1回目 (3.7/3.6) ■ 2回目 (3.9/3.8)

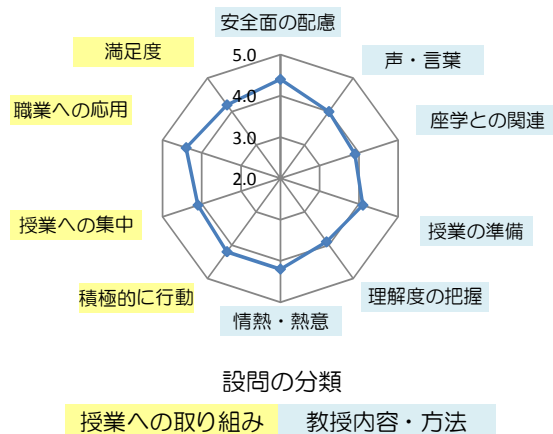


- 改善要望**
- ・説明の内容が難しい
 - ・授業のペースが早い
 - ・興味が出る授業をして欲しい
 - ・声や言葉が聞き取りにくい
 - ・板書が取りにくい
 - ・実習実技と関連付けた授業

↓ 改善

- 主な対応策**
- ・ポイントを絞った授業の実施
 - ・プリントによる予習復習の実施
 - ・授業後の補講や質問の有効利用
 - ・現場経験を話し、マンネリ化防止
 - ・丁寧に板書し、ゆっくり話す
 - ・分かりやすいプリントや資料作成
 - ・身近なものや船務に沿った話題

《実習・実技》（全3校の平均）
 (4.1/4.0)



- 改善要望**
- ・指導方法が統一されていない
 - ・実習時、各配置の人員が多すぎる
 - ・座学との関連性を持たせて欲しい
 - ・説明が分かりづらい
 - ・応用できる内容の導入
 - ・総復習を取り入れて欲しい

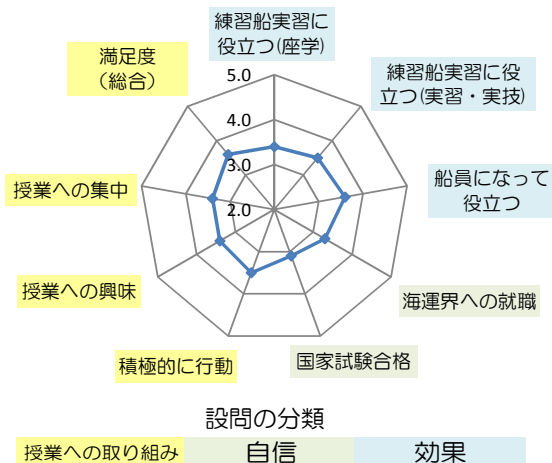
↓ 改善

- 主な対応策**
- ・各科主任による事前内容の確認
 - ・練度調査、作業内容による班編成
 - ・座学の進行手順を実習に合わせる
 - ・簡潔に伝えられる話し方を覚える
 - ・個人の主観で授業を実施しない
 - ・個々の能力に合った指導をする
 - ・天候に伴う授業内容を充実させる

専修科（2年）

※（今年度/昨年度）のポイント平均値

《座学》（全3校の平均）
 (3.4/3.4)



- 改善要望**
- ・国家試験への対応
 - ・問題演習を増やして欲しい
 - ・板書量が多すぎる
 - ・教科書が難解で理解に苦しむ
 - ・理解度を見ながらの授業実施

↓ 改善

- 主な対応策**
- ・模擬口述試験による回答確認
 - ・口述試験の過去問題実施
 - ・板書と説明量を考慮した授業実施
 - ・学生中心に回答させる時間の確保
 - ・視聴覚教材の利用
 - ・実践を意識した授業の実施

平成22年度 保護者アンケート報告書

昨年度に引き続き、保護者等の外部の意見を取り入れることにより、授業改善や学習指導、生活指導につなげるため保護者アンケートを実施することとした。
実施にあたっては、保護者会実施校(本高校)でアンケートを行い、対象者は保護者会への参加者とした。

1. 回答を4つの中から選択する型式の設問(1～8)および集計結果 回答者数:157名

《凡例》 :よくあてはまる :ややあてはまる :あまりあてはまらない :あてはまらない
(グラフ内の数字は%)

設問1. 学校の雰囲気はよく、清掃が行き届いている。(生活)



設問2. お子さんは、学校を楽しんでいる。(生活)



設問3. お子さんは、学校での授業が分かりやすいと言っている。(学習指導)



設問4. 先生は、生徒の質問にも丁寧にわかりやすく教えてくれている。(学習指導)



設問5. 学校に入学して規律正しくなったと思う。(生活指導)



設問6. 学校は、生徒に対する様々な問題点を見逃さずに適切に対応していると思う。(生活指導)



設問7. 配布物により、学校からの情報は適切に家庭に伝えられている。(学級運営)



設問8. 学校の就職や進学の見学指導や生活指導に満足している。(全体的満足度)



2. 自由記載形式の設問 《代表的な意見を記載》

※ ()内の数字は昨年度実績

(1) 授業見学した感想はいかがでしたか。 … 回答数 62 (33)

肯定的な意見 38 / 62 = 61.3% (51.5%)

- ・明るくてとても良い雰囲気勉強している
- ・声が大きく聞き取りやすい
- ・実際の機器を使って分かりやすく説明していた
- ・難しい専門の授業も、分かりやすく丁寧に授業をしていた
- ・みんな集中して授業を受けていた
- ・教え方が上手でおもしろく、生徒も笑っていた

否定的な意見 24 / 62 = 38.7% (48.4%)

- ・先生に対する姿勢や態度が良くない
- ・態度の悪い生徒が数名いた
- ・生徒の声があまり聞き取れなかった
- ・生徒にもっと質問をした方が良い

(2) 本校に入学させて、お子さんに期待していることは何ですか。 … 回答数 81 (83)

- ・人間力を身につけ、社会に対応できること
- ・海技士等、様々な資格の取得
- ・海運業界を担う立派な船員になること
- ・集団生活による規則正しい生活習慣や協調性を身につけること
- ・夢を実現させるために努力して欲しい

(3) 学校に改善してもらいたいことがありますか。

①教育設備 … 回答数 11 (10)

- ・寮内の除湿対策
- ・寮の玄関や班室の環境
- ・パソコン台数の増設
- ・校舎、寮内の冷房設備 (エアコン・扇風機)

②就職や進学の指導 … 回答数 20 (25)

- ・進学や就職情報の早めの伝達
- ・生徒本人の意向を十分に聞いて欲しい
- ・親にもわかる就職セミナーの開催
- ・就職後の仕事内容や体験談、成功例や失敗例の紹介

(4) 学校に入学して、お子さんが変わったところがありますか。

①よい面 … 回答数 72 (88)

- ・自分の事は自分ですようになった
- ・親に対してやさしくなった
- ・挨拶をきちんとし、思いやりを持てるようになった
- ・人間的に成長し、何事も自立できるようになった
- ・精神的、肉体的にたくましくなった
- ・規則正しい生活をしており、積極性が出てきた

②悪い面 … 回答数 32 (33)

- ・言葉遣いが乱暴になった
- ・髪の毛など、おしゃれを気にするようになった
- ・態度がだらしくなった
- ・あまり勉強しなくなった
- ・お金の使い方が荒くなった

(5) その他 … 回答数 31 (35)

- ・HPから、最近の様子を知ることができます。こまめに更新されていて、嬉しく思います。
- ・一般の高校より、細かく生徒を観察・指導しており、感謝しております。
- ・親と一緒にいない分、悪い事をしたら先生方には厳しく指導して欲しいです。
- ・寮内のトラブルが多いようなので、早めの対応をお願いします。
- ・昼食を食べたが、もう少しボリュームが欲しい。男子には物足りないのではないか。

資料11

広報活動資料

	本科									
	小樽		館山		唐津		口之津		計	
	H21	H22	H21	H22	H21	H22	H21	H22	H21	H22
学校訪問数（中学校）	650	742	249	262	573	623	148	316	1,620	1,943
雑誌等への掲載回数	29	13	8	8	112	5	89	92	238	118
学校説明会への参加数	7	6	0	0	3	3	2	2	12	11
体験入学等開催回数	3	3	6	6	2	2	2	2	13	13
学校案内の発送部数(箇所)	1,971	2,173	4,331	4,432	1,027	2,452	4,111	4,310	11,440	13,367

	専修科						本部		計	
	宮古		清水		波方					
	H21	H22	H21	H22	H21	H22	H21	H22	H21	H22
学校訪問数（高等学校）	575	468	407	165	362	358	352	316	1,696	1,307
雑誌等への掲載回数	15	27	12	19	76	70	—	4	103	120
学校説明会への参加数	2	14	5	6	2	3	—	2	9	25
体験入学等開催回数	4	6	6	5	6	5	—	—	16	16
学校案内の発送部数(箇所)	1,136	1,570	6,849	7,623	4,054	2,513	—	—	12,039	11,706

【合計】

取組	21年度	22年度	増減
学校訪問数（校）	3,316	3,250	▲66
雑誌等掲載数（回）	341	238	▲103
学校説明会数（回）	21	36	15
体験入学実施数（回）	42	29	▲13

平成 22 年度 研究分野別一覧表

[重点研究 (H22年度から)]

研究番号	分類	研究テーマ名	代表者
A10-001-1	E	海技者育成における教育・訓練資機材のあり方に関する研究	航海科長
A10-002-1	E	船員教育の高機能化に関する研究	機関科長

[一般研究 (H20年度から継続研究)]

研究番号	分類	研究テーマ名	代表者
08-001-3	E	船用機関士のシステム操作におけるヒューマン・エラーに関する研究	池西憲治
08-002-3	E	船用機関士に対する効果的なチーム訓練方法に関する研究II (チーム訓練に対する新たな構想)	近藤宏一
08-003-3	B	船舶及び船用機関の安全管理技術に関する研究	引間俊雄
08-005-3	E	船用プラント学習システムに関する研究(II)	野尻良彦
08-007-3	F	海事政策と異文化理解に関する研究～アメリカ文化の変容と「海洋」	杉田和巳
08-008-3	G	海事英語における船の動勢の描写についての一研究	田中賢司
08-010-3	D	再生可能エネルギーの船舶及び港湾設備への導入とその安全管理に関する研究	角 和芳

[一般研究 (H 21年度からの継続研究)]

研究番号	分類	研究テーマ名	代表者
09-001-2	E	船舶の機関システムの保守管理に関する調査研究	桑島隆志
09-003-2	B	熟練機関士における技能及び知識の獲得方法に関する研究	前田 潔
09-005-2	C	船員の静電防止具着用に関する実験的研究	山本一誠
09-006-2	A	ウェザールーティングの有効性に関する考察	堀 晶彦
09-009-2	F	ISMコードの有すべき犯罪抑止性	逸見 真

[一般研究 (H22年度新規研究)]

研究番号	分類	研究テーマ名	代表者
10-001	F	海上交通安全法に関する一考察	岩瀬 潔
10-002	C	GPSの信頼性に関する研究	奥田成幸
10-003	A	船橋当直における航海情報の有効性	中村直哉
10-004	F	ISMコードにおける「相当の注意」の意義	逸見 真
10-005	C	熱応力による船用機関の損傷に関する研究	池西憲治
10-007	D	分析機器を利用した海洋環境教育に関する研究	藤谷達也

[共同・受託研究]

相手先	研究テーマ名	代表者
社団法人神戸海難防止研究会	大型船係留時における係留索使用上の安全対策検討調査	浅木健司
社団法人日本船長協会	操船シミュレータにおける調査研究	増田憲司
大阪大学大学院工学研究科	気液界面積濃度に関する研究	近藤宏一

<研究の分類>

- A : 船舶の運航技術に関する研究 (航海系)
- B : 船舶の運航技術に関する研究 (機関系)
- C : 船舶の安全性・信頼性に関する研究
- D : 海洋汚染等船舶の運航に関して発生する環境問題に関する研究
- E : 船員の教育訓練に関する研究
- F : 船員政策、海事法規、海事海運経済に関する研究
- G : 海事思想の普及に関する研究

重点研究 : 2件 (内新規 2件) 一般研究 : 18件 (内新規 6件) 共同・受託研究 : 3件 (内新規 3件)

平成22年度 委員等派遣実績

学会名・委員会名等	役職等	氏名
財団法人 海技振興センター		
海技ネットワークの運営に関する専門委員会	委員	岩瀬 潔
航海の安全に関する専門委員会	委員	岩瀬 潔
STW調査検討に関する専門委員会	委員	引間俊雄
海技情報連絡会議	委員	堀 晶彦
	委員	前田 潔
教材等作成検討小委員会	委員	堀 晶彦
社団法人 神戸海難防止研究会		
	理事	加藤 学
	常任委員	岩瀬 潔
	常任委員	浅木健司
大型船係留時等における係留索使用上の安全対策検討調査	委員長	浅木健司
	委員	山本一誠
神戸中央航路等整備に伴う船舶航行安全対策調査委員会	委員	浅木健司
大阪港主航路航行安全対策検討調査委員会		岩瀬 潔
和歌山港下津港海岸(海南地区)船舶航行安全検討調査委員会	委員長	浅木健司
	委員	岩瀬 潔
和歌山港下津港海岸(海南地区)工事に伴う船舶航行安全検討調査委員会	委員長	浅木健司
	委員	岩瀬 潔
神戸港六甲アイランド地区浚渫工事に係る船舶航行安全対策調査委員会	委員長	浅木健司
	委員	岩瀬 潔
神戸港六甲PI(第2期)地区神戸中央航路及び航路泊地等(PC-15~17)浚渫工事施工計画変更検討調査委員会	委員	浅木健司
		岩瀬 潔
大阪港新島建設等工事航行安全対策調査(フェニックス事業)委員会	委員	堀 晶彦
平成22年度津波情報の船舶への伝達方法等の調査委員会	委員	堀 晶彦
社団法人 日本航海学会		
編集委員会	委員	岩瀬 潔
	委員	逸見 真
論文審査委員会	査読委員	奥田成幸
	査読委員	堀 晶彦
	査読委員	浅木健司
	査読委員	山本一誠
	査読委員	増田憲司
	編集幹事	増田憲司
研究委員会	委員	岩瀬 潔
	委員	奥田成幸
社団法人 日本マリンエンジニアリング学会		
エネルギーシステム研究委員会	副委員長	伊丹良治
「第9回マリンエンジニアリング国際シンポジウム」組織委員会	委員	加藤 学
「第9回マリンエンジニアリング国際シンポジウム」実行委員会	委員	引間俊雄
	委員	角 和芳
学会賞授賞審査委員会	委員	近藤宏一
国際交流委員会	委員	近藤宏一
研究委員長会議	委員	角 和芳
第2類及び第46期代議員		角 和芳
	査読委員	伊丹良治
社団法人 船長協会		
操船シミュレータ研修検討委員会	委員長	浅木健司
社団法人 日本船舶海洋工学会		
海洋教育推進委員会	委員	石倉 歩
社団法人 瀬戸内海海上安全協会		
専門委員会	委員	岩瀬 潔
社団法人 日本機械学会		
2010年度(第88期)校閲委員	校閲委員	近藤宏一
レスキューロボットコンテスト実行委員会		
	実行委員	前田 潔
小樽地区「海の月間」実行委員会		
	実行委員	奥田宣夫
「マリンフェスタ in 小樽」実行委員		
	実行委員	奥田宣夫
小樽海洋少年団		
	顧問	奥田宣夫
唐津港振興会		
	顧問	石田正一

委員派遣:13機関(延べ51名)

資料14

平成22年度 研究発表実績一覧

No.	発表タイトル	発表形式	レベル
1	Measurement of chlorine stable isotopic composition by negative thermal ionization mass spectrometry using total evaporation technique	学会論文	L1
2	Influence by Passing of Time to Students' Behavior of Operation on PC Based Engine Room Simulator	学会論文	L1
3	The Position Accuracy of DGPS Affected by the Propagation Characteristic on MF Beacon Wave	学会論文・国際学会講演発表	L1
4	ISMコードの求める会社の責任への対応-わが国における法人(会社)処罰の問題点	学会論文	L1
5	Applicability of Full-Mission type Engine Room Simulator Training to Marine Engineers	国際学会講演発表	L2
6	The Position Accuracy of DGPS Affected by the Propagation Characteristic on MF Beacon Wave	国際学会講演発表	L2
7	STABLE CHLORINE ISOTOPES AND ELEMENTAL CHLORINE BY THERMAL IONIZATION MASS SPETROMETRY AND ION CHROMATOGRAPHY MARTIAN METEORITES, CARBONACEOUS CHONDRITES AND STANDARD ROCKSe	国際学会講演発表	L2
8	太陽光発電及び固体酸化物形燃料電池の停泊中の船舶への利用に関する基礎研究	国内学会講演発表	L3
9	船舶機関士に対する効果的な電気溶接技能の習得に関する研究	国内学会講演発表	L3
10	船舶機関の運用トラブルに関する実態調査	国内学会講演発表	L3
11	最近の船用補助ボイラの水質管理に関するトラブル事例と対策 —船舶管理会社・船舶機関士・薬品メーカー・造船所（ボイラメーカー）の責務—	国内学会講演発表	L3
12	レーダ情報の信頼度向上 —偽像自動検出—	国内学会講演発表	L3
13	船上のヒヤリハット分析を基に安全再教育 —先進のテキストマイニングの可能性—	国内学会講演発表	L3
14	船用ボイラの基礎と実際（二訂版）	著書	L4
15	気液界面積輸送に関連した拡大管における気液二相流の流動構造	依頼講演	L4
16	2009年におけるマリンエンジニアリング技術の進歩	技術資料	L4
17	海技の実践における法的思考の活用 —暗黙知的海技の克服のための一手法	学術雑誌掲載	L4
18	最近の船用補助ボイラの水質管理に関するトラブル事例と対策—関係部署の責務と水質分析用ログシート標準化の必要性	技術資料	L4
19	船舶の安全・効率運航に対するチーム意識醸成の必要性 —第1報：チーム意識醸成プログラムの開発	技術資料	L4
20	船舶の安全・効率運航に対するチーム意識醸成の必要性 —第2報：チーム意識訓練の有効性	技術資料	L4
21	DGPSにおける中波ビーコン伝搬特性が与える測位精度	研究報告	L4
22	ISMコードの利用による船員処罰の回避（下） —乗組員の個人処罰から法人（会社）処罰へのアプローチ—	研究報告	L4
23	船舶機関士に対する効果的なアーク溶接技能の習得に関する研究	研究報告	L4
24	ウェザールーティングの有効性—II —黒潮を利用した最適航路の検討—	研究報告	L4
25	海上交通安全法に関する—考察 —明石海峡航路について—	研究報告	L4

発表形式	レベル	発表実績
査読付学会論文発表	L1	4
国際学会講演発表	L2	3
国内学会講演発表	L3	6
海技大学校研究報告等	L4	12